※過去に掲載された記事になります。内容は公開時のものであり、最新の情報とは異なる場合がございます。

スタッフ一覧へ／プロローグへ

このコンテンツ、あなたの評価は？ ○ おもしろい ◉ ふつう ○ おもしろくない 送信

© Panasonic Corporation

※過去に掲載された記事になります。内容は公開時のものであり、最新の情報とは異なる場合がございます。

映画監督はプラズマの黒に唸ったか!?
～プラズマテレビ「ビエラ」～

21世紀の映画監督は、DVDも手塩にかける!

皆さん、こんにちは。田中光敏といいます。
どうぞよろしく。
僕は2002年にデビューを果たした、
現役映画監督の1人なのですが・・・

今の時代、僕たちの仕事は、作品が劇場公開されれば終わりというわけにはいきません。
そう、公開後に発売されるDVDの制作にも、深く関わっているのです。

ちなみに僕の監督作品は、この2本。

化粧(けわい)師
DVD：東映 DSTD02131

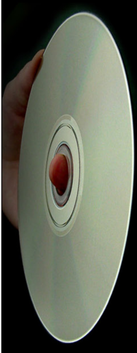
出演：
椎名桔平、
菅野美穂、
池脇千鶴ほか

石ノ森章太郎原作。
大正時代を舞台に描かれる、
人の心までも豊かに(化粧のけわい)
していく化粧師と、彼によって人生に
新たな輝きを与えられる女性たちの物語。
(2002年公開)

精霊流し
2003年「精霊流し」製作委員会
DVD：東北新社 TBD-1093

出演：
戸田恵梨香
浅井美紀、
松坂慶子ほか

同名ヒット曲を歌った、
さだまさしの自伝的小説を映画化。
鎌倉と長崎を舞台に、切ないまでの
「母と子」の絆を描く愛の物語。
(2003年公開)



映画のDVD化なんて、フィルムからディスクへ移すだけでしょ、簡単なんじゃないの、と思われる方もいたりして、ところがですね、実はかなりの時間と手間をかけているのですよ。
映画館で上映されているフィルムは、あの大きなスクリーンサイズやスペースを前提として、色味も音のタイミングも調整されているんですね。たとえば映画館の広い空間だと、最前列で観る人と最後列で観る人では、音が耳に届くタイミングにわずかの差が出てしまう。すると遠い座席の人には、役者さんの口の動きから一拍ずれてセリフが聞こえてくるように感じられる事があるんです。それを防ぐために、役者さんの口の動きよりもほんのわずか、フィルムの1コマ(1/24秒)程度早めに音を仕向けたりしているんですよ。
それを今度はDVD化するとなると、当然劇場とは全く違うシチュエーション、つまり家庭のテレビやホームシアターを想定して、それに適した色合い、音のタイミングに調整しなおしてやらないといけません。もちろん全編、全カット、一つ一つチェックして調整していくわけです。
これとっても時間がかかるんですよね。でも妥協はしたくない。映画はフィルムによる映写を大前提とした芸術とはいえ、やっぱり自分の作品ですから。たとえテレビ画面で初めて出会う人にも、できるだけ映画館と同じ感動を伝えたいと思うんです・・・だからDVDのオーサリングに入る時は、緊張感を持って臨むようにしています。
で、僕が日ごろから気にしていたのは、その後のことです。スタッフの皆さんが主いで作ったDVDソフト、その成果は本当に家庭のテレビで再現されているのでしょうか。確かに、最近のデジタル技術の進化には目を見張るものがありますが。が、それは「映画」の画質として、どこまで評価できるものなのか・・・。

話題のプラズマと、その開発カントクに出会う!

そんなことを考えていた折、旧知の仲であるパナソニックの次田さんから、突然お電話が。
そしてこんなオファーを受けました。
「うちのプラズマテレビ『ビエラ』。"映画を見るなら、プラズマですっ"って宣伝してるんですけど、監督の目で本当かどうか一度ご覧になっていただけませんか？」
聞けば、開発者の方がご一緒いただけるとのこと。最新のプラズマテレビの実力をじっくり確かめるチャンス到来！
「わかりました、伺います！」
ということで、自作2本のDVDを手にやって来たのは、大阪は京橋にある「Panasonic Center OSAKA」。なんでも、2005年春にオープンしたばかりなんだそうです。なんだかピカピカしていますね。

お会いしたのは、パナソニックAVCネットワークス社の折田剛(おりた つよし)氏。ブラウン管の時代から、一貫してテレビの画質向上に取り組んできたという彼。ブラウン管を14年、その後液晶を1年ほど手がけてからプラズマの開発へ。その開発も2005年で4年目になるベテラン技術者さんです。というわけで、僕と折田さんによるプラズマと映画のよもやま話・・・

本番ヨーイ!・・・スタート!!

折田 剛(おりた つよし)
松下電器産業株式会社
パナソニックAVCネットワークス社
映像・ディスプレイデバイス事業グループ
PDPテレビビジネスユニット リーダー

Next
2のシーンへ

© Panasonic Corporation

※表示に規格された記載になります。内容は公開時のものであり、最新の情報とは異なる場合がございます。

プラズマと液晶は何が違うの？

監督
「どうもこんにちは。今日はプラズマテレビを見せてもらいに来たんですが・・・、えーと、ここに置いてあるのは全部プラズマですか？」

担当
「いい、液晶テレビとプラズマテレビの両方が置いてあります。パナソニックでは、どちらも発売していまして、ここでそれぞれの製品をちょっと聞いたりなんと言う事ぶ。であるんです。あの後ちにあるのが液晶、監督が後ろにあるのがプラズマテレビだとなっております。」

監督
「そうでしたかいや、実は僕、プラズマテレビをこうしていっぱい見るのは初めてなんです。見た目は液晶テレビと区別がつかないんですが・・・大きな違いって何なんですか？」

担当
「プラズマは液晶テレビとはくらべて、大型化、やわらかい特長です。下駄ですね！キレイなジュエリーを液晶がお美しめ&キレイなんです。」

監督
「大画面が・・・なるほど。だから、映画館も&ならプラズマです。がうちょい文句はないのもんですね。」

担当
「ん、ん、DVDで映画を楽しみたい方には迷わずプラズマをお選びいただきたいですね。ここに置いてあるのとうなのがXXXシーズは、まだ〇〇映画をご家庭で楽しんでいただくのに最適のシリーズとなっています。&わかる方にとっては、表現豊かな画&が優れています&。大物で重あって電源いただくのにも適しているんです。」

撮影のウラ話を交えつつ…プラズマビエラ試写会スタート!

ものづくりスピリッツ特集サポンシーイルム(Tvm)

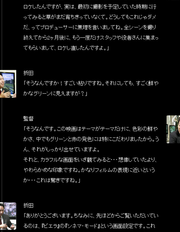
ものづくりスピリッツ特集サポンシーイルム(Tvm)

ものづくりスピリッツ特集サポンシーイルム(Tvm)

※過去に掲載された記事のまとめです。内容は公開時のものであり、最新の情報とは異なる場合がございます。

続いては、鮮やかな色彩表現をチェック。

さて、「黒」の次は、鮮やかな色彩表現についていろいろ聞いてみましょう。



監督
「鮮やかな色が欲しくてこだわったといいます。この車椅子のシーン。ここは本来は二重の車椅子なんです。車椅子の上面黒さの部分のロクたんスペ下が、最初は、最初は、最初は、最初を子定。でいい時間ほどかってみると実がまだ高ぎまっていなくて、どうしてもこれじゃダメだ、ってプロデューサーに言われて、言われて、言われて。まじーいっを撮り終えてからの。月末に、ちょっ度ひ日ちょっが撮影入に来ま。てもらいまして、ロケに、撮ったんです。」

※過去に掲載された記事になります。内容は公開時のものであり、最新の情報とは異なる場合がございます。

映画監督はプラズマの黒に殺ったか!?

プラズマ vs ビエラ

プロの映画人も喜ぶ、「ビエラ」のディティール描写。

監督
「ディティールといえば、『化粧』は時代物ですから、髪にもかなり手がかかっています。」

折田
「日本髪ですね。『ビエラ』で見ていただければ、アップのシーンでは髪のひと結びと結ぶまで、べたっとつぶれずに表現されているのがお判りになるかと。」

監督
「本当だ。結髪(けっぱつ)さん(日本髪のヘアメイク専門家)も喜ぶと思います(笑)。
女優さんでもね、全てご本人の髪の毛で結う人と、前髪だけ自分の髪を使う人がいらっしゃいますよね。その場合は、カツラの部分と差がついて見えないように、照明やカメラでさいしょうぶ調整するんですよ。その努力が実っているかどうか、プラズマだったら確実に確認できますね。」

折田
「なるほど。テレビ番組なんかだったら、カツラまる判バレっていうのもありますが、さすが映画の現場は違いますね。」

監督
「プラズマテレビがディティールの描写にも強いということがわかったところで、今度は『精霊流し』のバラの咲き乱れる夜のシーンです。」

折田
「わあ・・・これはまた・・・」

監督
「大変そう？(笑)バラの色を出すのが？」

折田
「うん、それと小さなバラが画面奥の屋根の上まで無数に散らばっているでしょう。そのへん、クリアに出せてますかねえ・・・」

監督
「あ、それは実は、あんまりクリアに出てなくていいんです。このシーンのために千本くらいバラを集めたんですけど、本物のバラは手前だけで、あの屋根の上とか後ろのほうにあるのは造花なので(笑)。」

折田
「モラなんですか？」

監督
「あれ、わかりませんでした？よかった。バレなかった。プラズマだとバレないかと思ってヒヤヒヤしましたよ。」

折田
「どっちが何をチェックしているのか、わからなくなってきましたねえ(笑)。」

監督
「黒の表現、鮮やかな色表現、ディティールの描写などなど、いろいろ検証してきましたが・・・って、ほとんど、僕の撮影ウラ話になっちゃってますけど(笑)。
ほか、プラズマならではの特徴というと何でしょうか？」

折田
「『高速いい動きも残像なく映せることですね。派手なカーチェイスとか、アクションシーンとか・・・ここは、涙腺が苦手な部分なんですよ。」

監督
「う、僕まだそんなシーン撮ったことない(笑)。あえて選ぶとすれば・・・このシーンはどうでしょう？『精霊流し』の乱闘シーンなんですが・・・。」

折田
「そうですね。こういった動きの激しいシーンは動いている部分にノイズが出る時間がありますが、今回のビエラでは動画ノイズの出やすい映像のみを自動検出して処理する能力を向上させています。」

監督
「スピード感のあるシーンでノイズとか残りなるのは嫌ですもんね。」

Next
2のシーンへ

© Panasonic Corporation

※表示は、閲覧されている環境によって異なります。お使いの環境によっては、表示されない部分もございます。

映画監督は「プラズマ」を使ったか!?

万人の心に響く「キレイ」を求めて。

監督
「当初全員ではこんな感じですね。しかし、あり方、たとえ、プラズマテレビの表現力がこれまで別物、ていうんでね、開発、特には、やっぱり映画の映画のセリ手、ってのを、と、表現、相当、していると、思ってます。」

担当
「ありがとうございます。現在テレビの試作品には、特徴の表現が、そうゴンブラを使って、表現した。はんの一部を、使ってはいるんですけど、この作品は、「画質を、全ての、特徴、にして、ってのが、ですね。この作品は、「画質を、全ての、特徴、にして、ってのが、ですね。この作品は、「画質を、全ての、特徴、にして、ってのが、ですね。」

監督
「モルッコの表現だったりのも、表が、深いですからね。」

担当
「本当にありがとうございます。でも、このがまんっていうんでしてね、白い黒も、やはりこの、黒で、表現、できていますから、ハ、ハ、ハ